

建築の多様化への考察

- 独り空間 -

設計背景／目的

近年、ワークショップなどによって市民の意見を取り入れながら、公共建築の設計を進めていく方法が広まってきた。そこではどうしても集団的豊かさを求め、建築計画としては『コミュニティ』を主役として取り扱うことが多い。それによって、主に公共施設などでは、広場やピロティを備えたものなど様々なパブリックスペースが提案されてきている。

建築設計において、公共の場で『コミュニティ空間』を想定しながら空間をつくっていく方法は、一般的になりつつあるが『個』を想定しながら空間をつくっていく例や方法は公共の空間ではあまり見られることはないのが現状である。



コミュニティが全てであるかのように社会が動いていくことに私は疑問に思う。マイノリティな人々の多様性を認めるような建築もあってよいのではないかと考える。本制作は、建築の多様化への考察である。

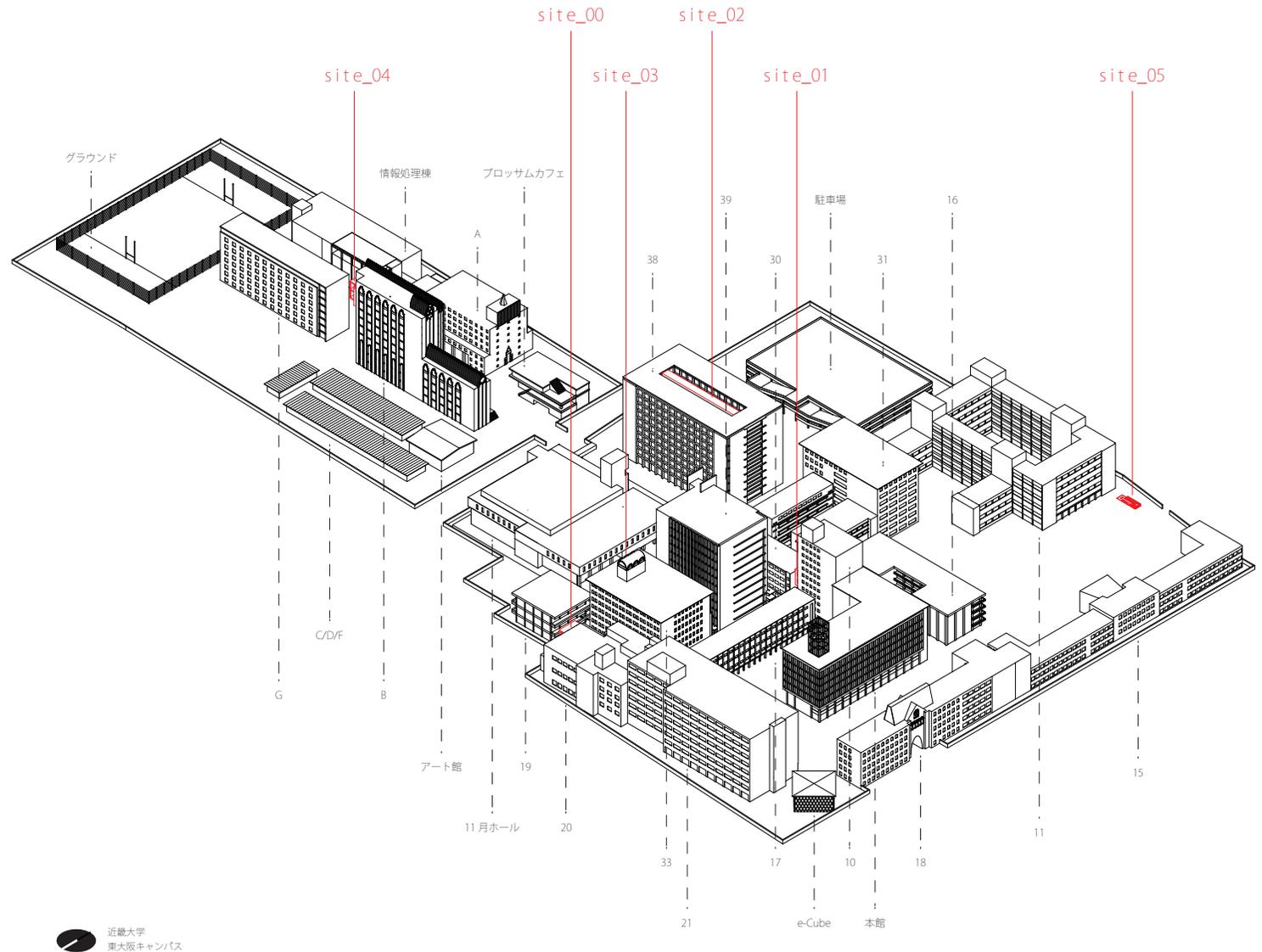
敷地

敷地は、私が学部生のときに通っていた近畿大学東大阪キャンパス。西日本で最大数の生徒が通う。そのため、ビルディングタイプの建物がほとんどであり、近年の学部・学科の増設により人口密度が高くゆとりのある空間が無いのが現状である。さらに今後も、学部・学科の増設が決定しており、そのために南側にある広い芝生の広場を廃止し、そこに新棟を建てる予定となっている。

現在、私が通っている武蔵野美術大学のキャンパスには美術制作の休憩の場となっている独りになれる空間が上手く配置されており、こういった近畿大学との空間の違いというのが本制作を行うにあたっての一つの動機となっている。



大学のキャンパスは、緩やかではあるが集団を求められる場所である。そういった条件から、本制作の意図と合致すると考えこの敷地とした。そして、私は、この範囲となっている近畿大学のキャンパスの6つの場所に独り空間として機能する独り空間 (site_00~05) を制作することを行った。



「独り空間」の定義づけ

「独り空間」の定義づけを明確にしたい。本制作で取り扱う「独り空間」とは、横文彦氏の「独りのためのパブリックスペース」が述べた「誰にでも開かれている場合は、独りでいても心地よい空間でもある」というようなものではなく、集団生活の中からふと物理的な距離をとる場所（避難場所・アジール）という意味である。



誰にでも開かれている場（公共空間）は、独りでいても居心地の良い空間にもなり得る（横文彦氏）



本制作は、集団の中からふと物理的な距離をとる行為、そういった時の空間を取り扱っている

制作方法

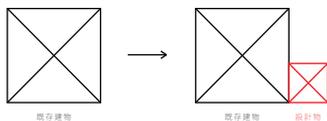
制作方法として、site_00~05 で共通して行った操作は建築の機能的な要素以外の部分をキャンパスにつくること、もう一つはその敷地と同化させることである。

1. 建築の機能的な要素以外の部分をつくる



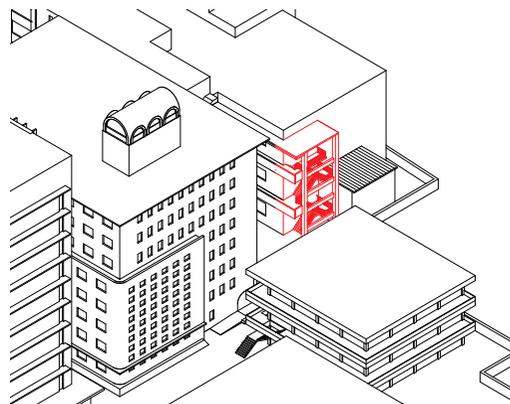
教室や食堂などの機能を持つ空間を、メインの空間とするならば、その横に延長させた空間をつくりひとり居られる場を設けることを考えた。その通路の延長であったり、溜まれる空間を現在ある建物に設置していく。

2. 同化する



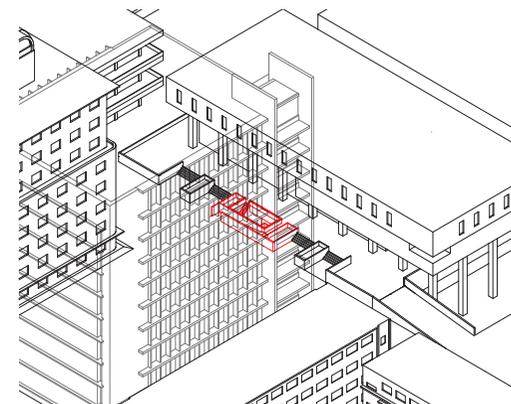
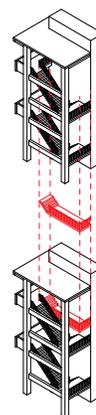
その建築のテクスチャーであったり空間の質など、その土地のコンテキストをよみとりながら、新たな空間をつくることを行った。例えば、site_04 では、その場所から見ることのできる風景を取り込みながら、空間をつかった。キャンパス内にいながらも知らないその土地の良さであったり、教室という画一的な空間だけでないキャンパス内で新たな空間体験ができるようなもの考えた。

建築をつくるひとつの選択肢（例えば、広場やピロティのように）として、独り空間（たまり場であったり行き止まりなど）が存在できないか、建築の多様性を提案する制作である。



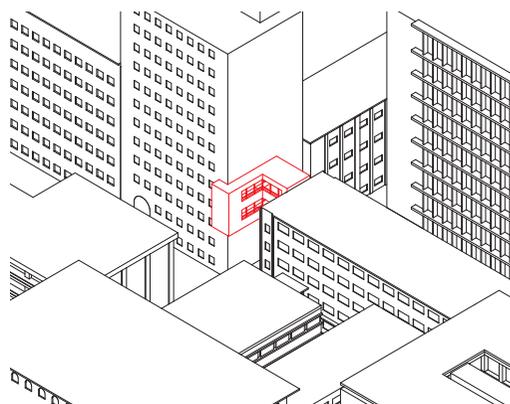
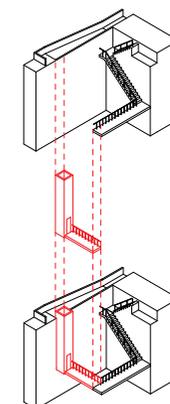
site_00

20号館の東端に位置するこの外階段は、建築学部棟である33号館の目の前にある。ここから見ることのできる空は印象的であり、それを見るための場をつくる。



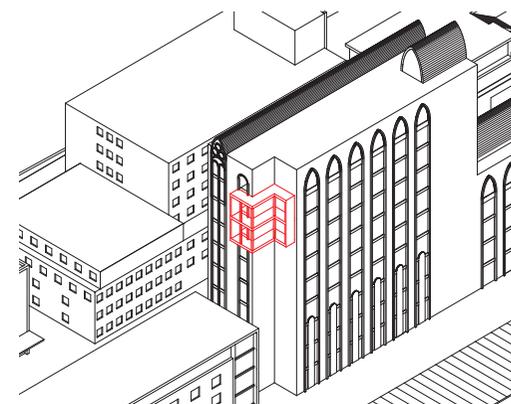
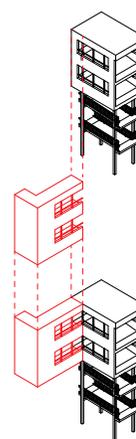
site_03

人取りの多い11月ホール付近ではあるが、ドライエアリアの存在はあまり知られていない。この場所の渡り廊下を延長させ小さな場をつくる。



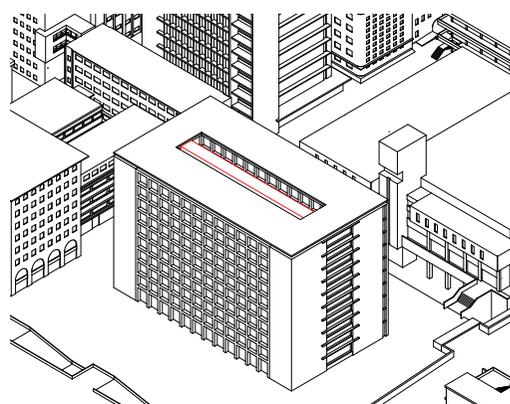
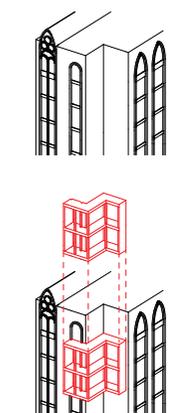
site_01

30号館と10号館には建設後に付けられた渡り廊下が建っている。この廊下は人通りが比較的多い。スロープになった渡り廊下から、横へと伸びる廊下をつくる。



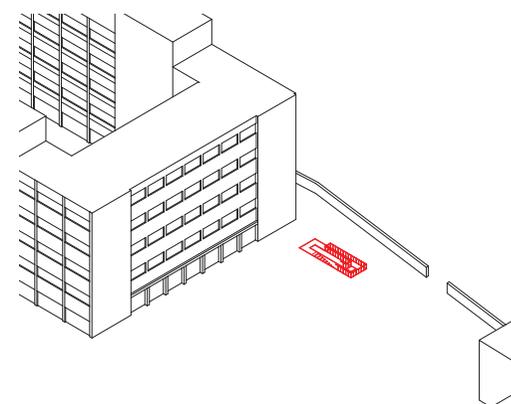
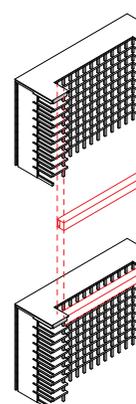
site_04

大学の中でこのA棟の建物は最も高い。10階からの生駒山の眺めは、他にはない。その建物の廊下を延長させ場をつくる。



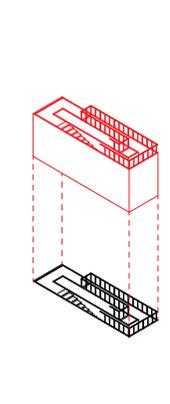
site_02

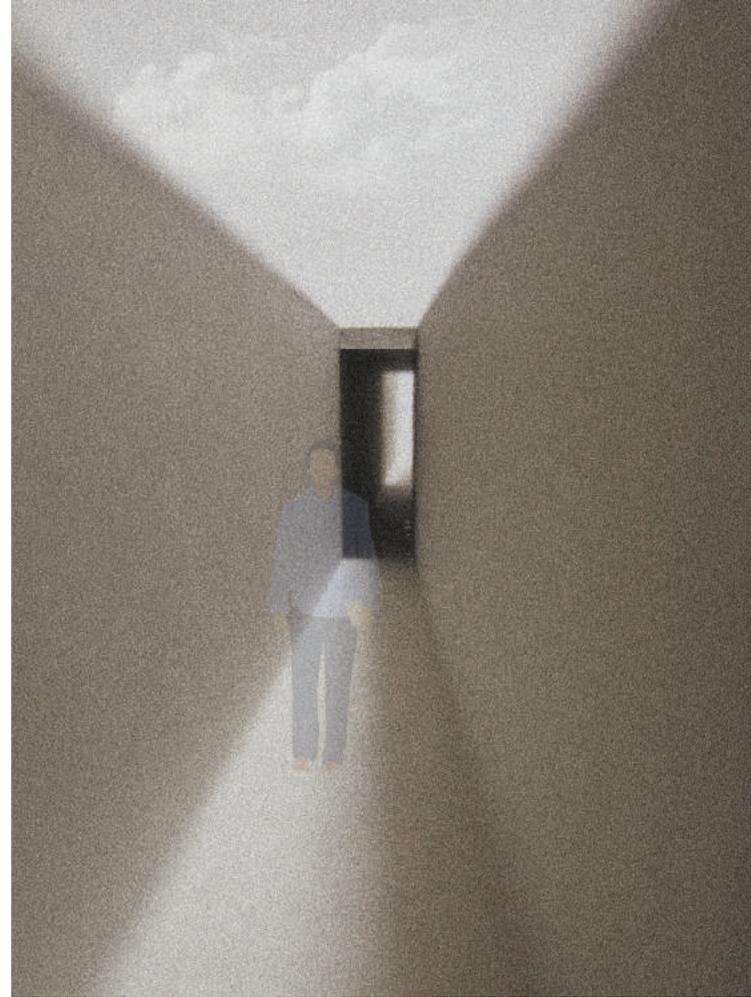
38号館はビルディングタイプ。研究室が並ぶこの建物にはたまり場は全くない。その吹き抜けた場所（普段は入れない）に屋外空間を挿入する。



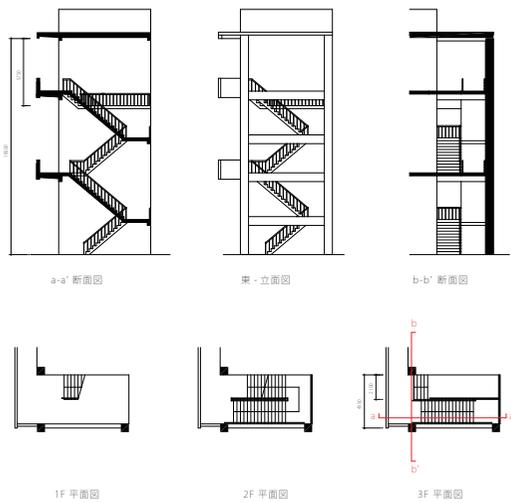
site_05

南芝生広場は、新棟建設のため無くなってしまふ。その土地に端にその無くなるまでの間使える空間を設ける。



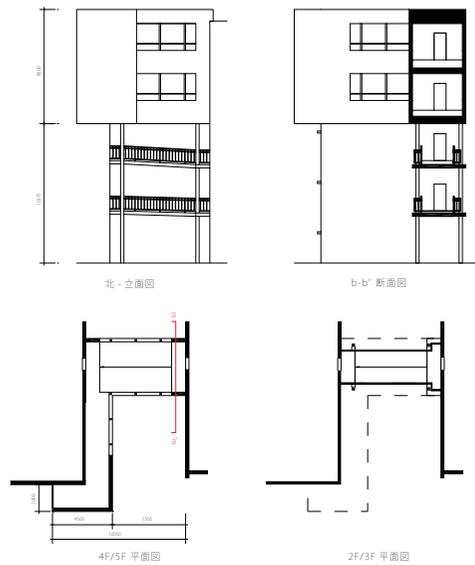


site_00



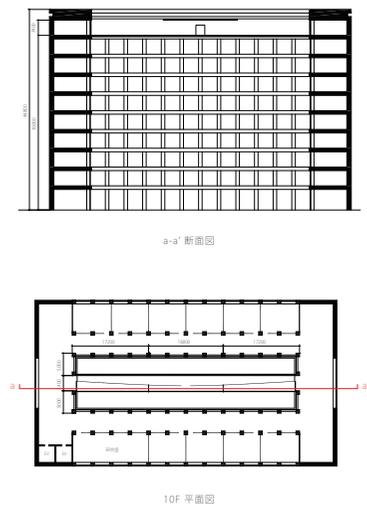
S=1:200

site_01



S=1:200

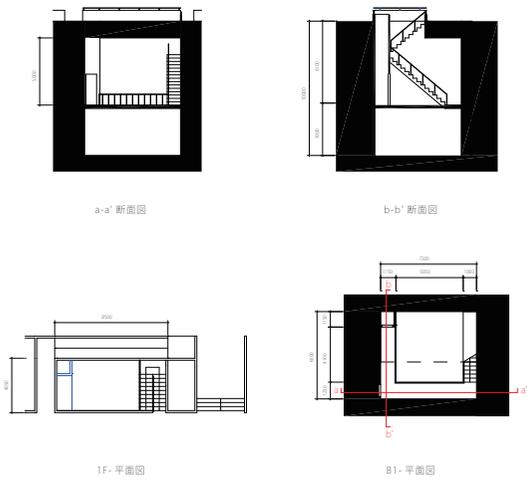
site_02



S=1:600

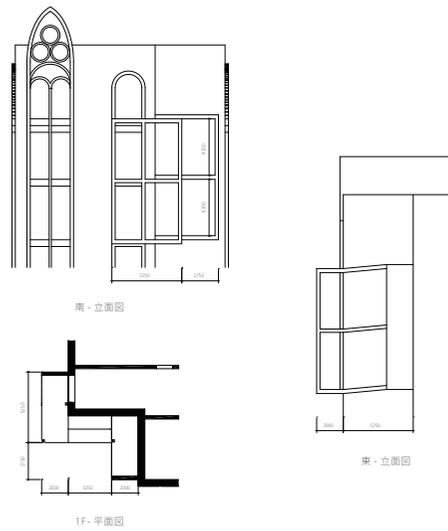


site_03



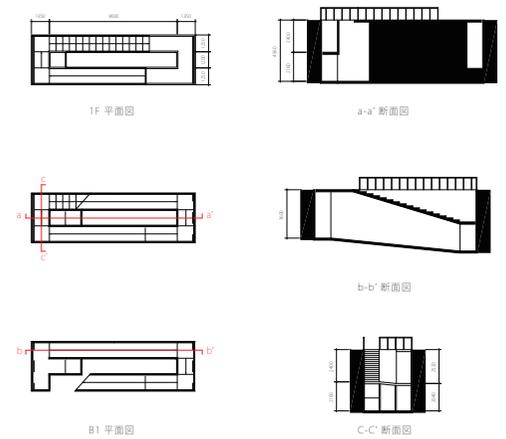
S=1:200

site_04



S=1:200

site_05



S=1:200